

令和3年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月31日実施)	総合評価（4月4日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>(1)単位制の利点をいかした年次進行制の教育課程に基づき、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育活動を展開する。</p> <p>(2)学習意欲を高め、自ら考え、表現する力を育む。</p> <p>(3)基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用する力の育成を図る。</p>	<p>(1)新しい教育課程の理念を踏まえ、授業の量的確保を前提とした「単位制の利点」との整合性を図る教科指導体制を模索する。</p> <p>(2)ICT 機器等を利用することで、生徒が主体的に学べる環境を構築し、わかりやすい授業を実現する。</p> <p>(3)「わかる授業」を追求し、「何ができるようになるのか」を明確に示した教科指導を展開する。加えて、外部教材を導入することで、基礎学力の更なる定着を図る。</p>	<p>(1)本校生徒に対応した新しい教育課程を策定し、授業の量的確保に合わせた教育規定の内容の充実を図る。</p> <p>(2)ICT 機器や Google classroom を活用した授業をより一層進め、学習意欲を高めるとともに、わかりやすい教科指導に努める。</p> <p>(3) 授業改善研修会等を通して、教科で共通認識を持つ「よりわかる授業」「何ができるようになるか」を明確化する。また、1,2 年次に「マナトレ」を実施し、更なる基礎学力の定着を図る。</p>	<p>(1)新しい教育課程の理念に基づく教育活動を展開し、目標とする人材育成ができたか。(生徒による授業評価、進路状況等)</p> <p>(2)ICT 機器等を活用する取組みができたか。生徒の学習意欲を高めることができたか。(生徒による授業評価等)</p> <p>(3)各教科の取組みの結果、生徒の学習状況が改善されたか。(生徒による授業評価、生徒の状況観察、基礎力診断テストの結果)</p>	<p>(1)本校の特色である学校設定科目をいくつか残し、本校生徒に対応した新教育課程表を作成した。</p> <p>(2)オンライン授業導入で、Google classroom を活用した授業実践が一気に進んだ。様々な工夫で生徒の学習意欲を高めることができた。</p> <p>(3)「マナトレ」を導入したことで、基礎学力の定着を図ることができた。生徒による授業評価から、「よりわかる授業」への各教科の工夫がうかがえた。</p>	<p>(1)残せなかった学校設定科目のいくつかを、今後、内容を見直し、再度申請する必要があるか検討する。</p> <p>(2)ICT 活用について、教科や年次を越えて実践例を共有していくと、よりわかりやすい教科指導に繋がる。</p> <p>(3)「マナトレ」の活用を工夫し、基礎学力の更なる定着を図る。</p>	<p>・オンライン授業で、全県下で習熟度に応じた授業を配信し生徒が選べるようになるという。</p> <p>・ICT 機器の利活用が授業をわかりやすくし、学習意欲を高めるのは明確だ。実践例を共有しよりよい教科指導に繋げて欲しい。</p> <p>・「わかる授業」等を軸として、困難な状況にも拘らず実践の工夫と成果が見られる。</p> <p>・「マナトレ」の導入で家庭学習がアップしたと考えられる。引き続き、マナトレによる基礎学力向上に期待する。</p>	<p>(1)本校の特色である学校設定科目をいくつか残し、本校生徒に対応した新教育課程表を作成できた。今後内容を見直し、再度申請の必要があるか検討する。</p> <p>(2)ICT 機器や Google classroom を活用した授業実践を進め、生徒の学習意欲を高めることができた。</p> <p>(3)生徒による授業評価から、「よりわかる授業」への各教科の工夫がよくなった。また、「マナトレ」の導入で基礎学力の定着が向上し、学力の伸びに繋がっていることも明らかになった。</p>	<p>(1)新教育課程表が本校生徒に十分対応できているか検証し、必要に応じて改善する。</p> <p>(2)ICT 活用について、教科や年次を越えて実践例を共有し、よりわかりやすい教科指導に繋げる。</p> <p>(3)「マナトレ」の活用を工夫し、基礎学力の更なる定着を図る。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>(1)生徒の規範意識を育成し、社会や集団の一員であるという自覚を持たせる。</p> <p>(2)学校行事等への積極的な参加を通し、豊かな人間性やコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>(3)教育相談・支援体制の整備に努め、生徒一人ひとりの豊かな学校生活を支援する。</p>	<p>(1)期待される行動を取ろうとしたり、マナーを守ろうとしたりする感性を醸成するとともに、他者を思いやり、違いを認める心や態度を育む。</p> <p>(2)学校行事や日頃の活動を通して、規範意識を身に付けさせながら、集団の一員としての責任感を育成する。</p> <p>(3)教育相談等を通して一人ひとりにきめの細かい支援を行う。</p>	<p>(1)「授業規律」の徹底、学校生活での挨拶の励行やルール・マナーを守らせることにより、生徒の規範意識や自他尊重の心を育む。</p> <p>(2)感染対策を踏まえ、学校行事や生徒会、部・同好会などの活動を通して、生徒が個々の役割を自覚し、協力して運営する体制づくりを行う。</p> <p>(3)教育相談やアンケートを通して個々の生徒の状況を把握し、いじめや問題行動を未然に防止する。</p>	<p>(1)生徒の規範意識が高まり、他者を尊重できる行動が取れたか。(遅刻、欠席数、指導件数の推移、挨拶の状況)</p> <p>(2)生徒が様々な活動を通して、個々の役割を自覚し、協力して運営する体制づくりが行うことができたか。(生徒の取組み状況、振り返りなど)</p> <p>(3)個々の生徒の状況把握、課題を認識した適切な指導、支援が行えたか。(スクールカウンセラーの活用状況、いじめアンケートの結果)</p>	<p>(1)「授業規律」が保たれ、特別指導件数は前年度の約 4 割減となり、規範意識も高まったといえる。欠席・遅刻数も減少傾向にある。</p> <p>(2)「体育祭」では感染対策を徹底し、係生徒が主体的に運営できる協力体制を整えた。「湘風文化 WEEK」では、日頃の文化活動を発表する機会やクラス全員で行う湘風イルミネーション 2021 を企画し達成感や帰属意識を高めた。</p> <p>(3)いじめアンケートを 3 回実施し、いじめの未然防止に努めた結果、いじめ件数はゼロであった。また、教員の「問題行動等未然防止」研修会を実施し、指導力の向上が図れた。</p>	<p>(1)特別指導件数は減少したものの、件数としては多く、継続してきめ細かい指導が必要である。遅刻、欠席が多い生徒の減少に努めていく。</p> <p>(2)さまざまな状況下においても実施できる行事や企画を研究しておく。</p> <p>(3)スクールカウンセラーの活用、各種アンケートの結果のフィードバックは、生徒理解や早期対応の一助となっていて、今後も継続したい。教員の生徒指導・支援に関する研修会を実施し、指導・支援力の向上に努める。</p>	<p>・集団の一員としての自覚と責任感の会得は必須と思われる。</p> <p>・自転車の乗車マナーの悪さが目につく。命に係わることなので、交通安全指導に力を入れて欲しい。</p> <p>・暑い中の体育祭で、もっと生徒の健康に配慮していただきたい。</p> <p>・「授業規律の徹底」「挨拶の励行」等の達成状況から、先生方相互の協力体制と、地道な積み重ねが窺われる。</p> <p>・ルールを守ることは大切である。明るく前向きな表現で「ルール厳守」を指導していけるとよい。</p>	<p>(1)「授業規律」が保たれ、特別指導件数は前年度の約 4 割減となった。生徒の規範意識も高まったと思われる。欠席・遅刻数も減少傾向にある。</p> <p>(2)感染対策を徹底して行事を実施した。「体育祭」では生徒が主体的に運営できる体制を整えて臨み、「湘風文化 week」では文化活動を発表する機会を作ると共に、クラス全員でイルミネーションを作り、達成感を高めることができた。</p> <p>(3)教育相談やいじめアンケートを通して個々の生徒の状況を把握した結果、生徒理解や問題の早期対応に繋がった。また教員対象の研修会を実施し、指導力の向上が図れた。</p>	<p>(1)特別指導件数の減少を維持するため、継続してきめ細かい指導を行う。遅刻、欠席が多い生徒の数が減るよう、必要な対応を考える。</p> <p>(2)様々な状況下においても行事を実施できるよう工夫を重ねる。行事や生徒会、部・同好会活動を通し、生徒が個々の役割を自覚して動けるよう、支援する。</p> <p>(3) 生徒理解や問題の早期対応のため、スクールカウンセラーの活用や各種アンケートの結果のフィードバックを今後も継続したい。教員の生徒指導・支援に関する研修会を継続し、指導・支援力の向上に努める。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月31日実施)	総合評価(4月4日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>(1)生徒が自ら将来像を描き、主体的に生涯を生きる姿勢を育てる。</p> <p>(2)生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、多様な進路希望の実現を支援する。</p>	<p>(1)-①高大接続改革に迅速に対応するとともに、変化する社会で生き抜く人材の育成を進め、進路指導へ反映させる。</p> <p>(1)-②生徒の学習意欲の高まりに応える進路指導を推進する。</p> <p>(2)自分の可能性を信じて目標に向き合う「挑戦力」を育成するとともに、それを支える教員の進路指導力の向上を図る。</p>	<p>(1)-①高大接続改革についての情報収集を継続し、研修会等の機会を増やして情報を共有する。</p> <p>(1)-②生徒の進路希望を把握し、希望者講習や校外模試等を継続的に実施できるようにする。</p> <p>(2)教員の進路指導力向上を図り、生徒が外部基準等を活用して将来を前向きに捉えて進路目標を考えられるよう、組織的な進路指導に取り組む。</p>	<p>(1)-①高大接続改革に関する情報を正しく発信し、適切な指導、支援が行えたか。効果的な研修が実施できたか。(研修の実施状況等)</p> <p>(1)-②講習や校外模試等を実施したか。(講習の講座数と受講者数、校外模試等の実施回数)</p> <p>(2)生徒の進路指導、支援が適切に行われ、目標実現がなされたか。(生徒の進路状況等)</p>	<p>(1)-①教員間で情報を共有して正しく発信することにより、高大接続改革に適切に対応することができた。</p> <p>(1)-②コロナ禍もあり、講習や模試の継続的な実施は難しかったが、進学対象者向けに、夏季講習や模試を実施できた。</p> <p>(2)総合的な探究の時間等を活用して、進路への意識付けや外部講師によるガイダンス等を効果的に実施することができた。</p>	<p>(1)社会情勢の変化などに対応した進路指導ができるよう、さらなる校内体制の整備・充実を図り、効果的な教員研修を模索する。</p> <p>(2)生徒が進路目標をしっかりと定められるよう、分野別説明会や体験学習等の機会を増やす。</p>	<p>・教員の指導の下、自分の可能性を信じて目標に向き合い、挑戦力を育成することは生徒も心強いと思う。社会情勢の変化に対応できるよう体制作りは必要である。</p> <p>・「1,2年次からの進路指導の充実」は非常に重要である。成人年齢の引き下げも絡めると実感が湧くと思われる。</p> <p>・私達の介護施設が隣接していることを活かし、職場見学やインターンシップによるガイダンス等(一部オンラインで)を実施することができた。</p>	<p>(1)-①高大接続改革について、教員間で情報を共有し適切に対応することができた。</p> <p>(1)-②生徒の進路希望を把握したが、コロナ禍で講習や模試の継続的な実施は難しかった。</p> <p>(2)総合的な探究の時間等を活用し、進路への意識づけや外部講師によるガイダンス等(一部オンラインで)を実施することができた。</p>	<p>(1)情報収集を継続し、社会情勢の変化に対応した進路指導ができるようにする。また、生徒の進路希望を正しく把握し、希望に応えられる進路指導を推進する。</p> <p>(2)生徒が進路目標をしっかりと定められるよう、分野別説明会や体験学習等の機会を増やす。</p>
4	地域等との協働	<p>(1)家庭や地域との連携によりパートナーとして愛され、支持を得られる学校づくりを推進する。</p>	<p>(1)-①生徒に、地域の一員として活動する機会を提供し、自己を発信することに意義を見出させ、自己肯定感・有用感を高める。</p> <p>(1)-②教育活動についての情報発信の充実を図り、家庭や地域により一層の理解と協力を求める。</p>	<p>(1)-①感染対策を踏まえ、生徒が地域の方々に貢献できる場を提供し、自己を発信することの意義を指導する。</p> <p>(1)-②教育活動について、Web ページ Twitter 等を通し、適時的確な情報発信をし、家庭や地域に学校への理解を深めてもらう。</p>	<p>(1)-①生徒が地域に貢献し、自己を発信する場を提供することができたか。地域貢献の大切さを指導できたか。(地域の企画や行事への参加状況、貢献度等)</p> <p>(1)-② 適時的確な情報発信をすることができたか。(学校運営協議委員会からの意見等)</p>	<p>(1)-①生徒会本部役員が「ひらつか WEB タウンミーティング」に参加し、地域の課題解決に向けて取り組んだ。「湘風文化WEEK」での制作作品を神田公民館の玄関に装飾した。11月に1年次生が学校周辺の清掃活動(地域貢献活動)を行った。</p> <p>(1)-②適時的確に情報発信するよう努めた。</p>	<p>(1)-①地域の活動がWEB 上で行われることが多くなったので、環境整備が必要である。コロナ禍においても、可能な地域貢献活動を実施していく。</p> <p>(1)-②より適時性を持って、学校の情報を発信する。</p>	<p>・コロナ禍で地域の行事は殆ど中止だが、チャンスがあれ高校生とは是非連携したいと常に思っている。</p> <p>・コロナの状況を見て、以前のように地域との交流を再開したい。</p> <p>・「ひらつか web ミーティング」への参加は素晴らしい。これを機に全国との交流も視野に入れて欲しい。</p>	<p>(1)-①生徒会役員が「ひらつか WEB タウンミーティング」に参加し、地域の課題解決に取り組んだ。また、文化祭での作品を神田公民館に飾ってもらったり、周辺の清掃活動を行った。</p> <p>(1)-②HP や Twitter 等を通し、適時、的確に学校の情報を発信することができた。</p>	<p>(1)-①コロナ禍ではあるが、できることから地域との交流を再開していく。</p> <p>(1)-②適時、的確な情報を発信していくように努める。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>(1)生徒が安全で、安心でき、居心地の良い学校生活を送ることができる、学校づくりに取り組む。</p> <p>(2)より一層の組織的な学校運営と業務の効率化を図る。</p> <p>(3)教員のワークライフバランスを推進するために、働き方改革を推進する。</p>	<p>(1)教育環境を整える意識の向上を図るとともに、非常時に向けた防災教育、防災用品整備に取り組み、生徒が安心して生活できる環境を確立する。</p> <p>(2)組織的に職務を遂行し、生徒・保護者・県民から信頼を得られる学校づくりに取り組む。</p> <p>(3)長期休業期間中に学校閉庁日を設定し、校務の効率化を図る。</p>	<p>(1)ICT 機器等を活用した授業ができる教室整備を図る。校舎内外の巡回をする中で清潔を保つ。非常時に向けた防災用品の確保と共に、安全な保管場所になるよう整備する。</p> <p>(2)生徒、保護者や地域の方に対して丁寧に対応する。さらに学校行事にPTAの活動をタイアップし、教職員と保護者で学校づくりをしていく。</p> <p>(3)夏季休暇の完全消化を目指す。さらに勤務時間内に業務が終了することを目指す職場環境づくりに取り組む。</p>	<p>(1)プロジェクトなどの機器を設置できた教室を増やすことができたか。清潔さの維持や非常口の確保など、安全で安心な居心地の良い教育環境を提供できたか。</p> <p>(2)電話などの対応が丁寧でできたか。学校行事にPTA役員など保護者の参加する機会を増やすことができたか。</p> <p>(3)夏季休暇の取得率がどれくらいであったか。企画会議や職員会議などの諸会議が、勤務時間内に終了できていたか。</p>	<p>(1)各HR教室へプロジェクトを配備し、授業時の利用や映像配信による全校集会等が実現できた。校舎内外の巡回を行い、清潔に保てた。</p> <p>(2)教員、生徒と共に保護者も地域清掃に加わる機会を作ることができた。体育祭や文化祭にもPTA参加の場面を設定できた。</p> <p>(3)閉庁日を5日設定し、休暇を取得しやすくした。打合せで Teams を利用し、業務効率が向上した。</p>	<p>(1)プロジェクト映像をさらに見やすくする遮光カーテン等の設置を検討したい。防災用品の保管場所の分散化など、もしもの時に利用できる体制をつくる。</p> <p>(2)コロナ禍に対応できる新たな活動を探したり、集団ではなく個々でも参加できたりする活動等の工夫をする。</p> <p>(3)朝の打合せ以外でも Teams 等を職員間の連絡に活用し、会議や打ち合わせの効率化を図る。</p>	<p>・プロジェクト、スクリーン等の設置にPTAが協力できてよかった。</p> <p>・校内を清潔に保ち、健康に毎日を送るために、先生や生徒が時間と神経を注がれたことがよく汲み取れる。</p> <p>・オンライン会議は働き方改革の流れに適った方法である。今後も業務の効率化に向けて DX を推進して欲しい。</p>	<p>(1)各HR教室にプロジェクトを配備し、授業時の利用や映像配信による全校集会等が実現できた。次は遮光カーテンの設置を検討したい。また、校舎内外の巡回を行い、清潔に校内を保つことができた。</p> <p>(2)PTA 役員と共に地域清掃を行ったり、体育祭や文化祭にPTA参加の場面を設定したりする等、保護者参加の機会を増やすことができた。</p> <p>(3)閉庁日を5日設定し、休暇を取得しやすくした。打合せで Teams を利用し、業務効率が向上した。</p>	<p>(1)各HR教室に遮光カーテンを設置し、ICT機器等が利用できる環境を整える。また、防災用品の保管場所の分散化など、非常時に対応できる体制を作る。</p> <p>(2)引き続き、生徒、保護者、地域の方から信頼される学校づくりに取り組む。</p> <p>(3)Teams を活用し、会議や打ち合わせの更なる効率化を図る。</p>